

20世紀における 「現代(前衛)音楽ではない音楽」

前回は20世紀における最前衛の二人「リゲティ」と「ペンデレツキ」を採り上げましたが、20世紀に入っても、後期ロマン派を引き継いで調性や様式をそのままに、そこに新世紀初頭の雰囲気を取り入れた作曲家がおります。今回はその中から代表的な作曲家の作品を紹介いたします。



クロード・ドビュッシー
(1862~1918)

* 子供の領分 (1906 - 1908)



モーリス・ラヴェル
(1895~1937)

* 弦楽四重奏曲へ長調 (1902~1903)



ジャン・シベリウス
(1865~1957)

* 「テンペスト」組曲 (1925)



ジャコモ・プッチーニー
(1858~1924)

* オペラ「蝶々夫人」より
「ある晴れた日に」 (1905)



セルгей・ラフマニノフ
(1873~1943)

* 交響的舞曲 (1940)



ベラ・バルトーク
(1881~1945)

* ヴァイオリン協奏曲第2番
(1937~1938)

◎ 時間の都合で演奏曲を変更する事があります。



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC)
分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日 時 / 2019年7月7日(月) 13:30~15:45

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 山本 一成 参加自由・入場無料

問合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>